

特集 新たに指定された貴重資料

「太宰治自筆ノート」について

附属図書館長 長谷川 成一

2009年9月、本学附属図書館では、小野正俊氏（著名な郷土文学研究家小野正文氏のご子息）から、英語と修身の「太宰治自筆ノート」2冊の寄贈を受けました。

内容は、昭和2年（1927）に官立弘前高等学校に入学した太宰（本名・津島修治）が、第1年次の英語と第2年次の修身の講義を書き留めた自筆の大学ノートです。英語のノートは、表紙に弘前高校の校章がすり込まれ、裏表紙に「今泉本店特製」との表記が見えるので、弘前高等学校生徒用に同本店で調製されたと推定されます。なかには、文学作品の現代語訳を記載しているので、第1年次の英語でも「読方読解」の授業の時のものでしょう。ノートは途中まで記された後、最後から天地逆に再び使用されており、途中、中断しています。講義の記録の他に、ノートには多くの落書きがあり、その大半は人物の肖像画と英語・日本語による自己の署名などです。

修身のノートは、今泉本店製ではなく、「神書店製」と表記。太宰が記録した講義の内容は、「吾人ノ国家

観及び吾国体」「国家ト個人ナラビニ愛国心」など4章から構成されており、微温的な国体論を展開しています。ノートは38ページまで使用されており、あとは白紙で、終わりの部分には7ページにわたる落書きが見えます。英語同様、表紙、裏表紙、表見返し、裏見返しにも落書きがあり、なかには自画像とおぼしき人物画も認められます。

本資料は、太宰治の自筆ノートという稀少性だけでなく、昭和初期の高等教育機関であった官立高等学校において、どのような教育がなされていたのかを研究する上でも貴重な価値を持ちます。また、当時の文部省の高等教育に関する方針や、現場の教員の思想、教育の姿勢などを考察するのに資する資料です。

ノートは、80年以上を経過していることから資料としての痛みが激しく、本館ではレプリカを作製して、2階の太宰文庫にある展示ケース、並びにサービスカウンターにて閲覧に供しています。是非、手にとってご覧下さい。（はせがわ せいいち）



寄贈者・小野正俊氏への感謝状贈呈式の様子
（2010年3月15日）



寄贈された太宰治の自筆ノート（手前）
と本館作成のレプリカ（奥）